沿岸地域を活性化しよう

『桟橋』が日本の海岸を変える!

成熟社会の新しい海岸づくり

PIERS 研究会 / 沿創研

英国が発明した海を楽し むインフラ『桟橋 (Pier)』

わが国と同じ島国の**英国では、ビクトリア時代の 1800 年代から、多くの人々が年間を通して海や海岸を楽しんできました**。最初は貴族など上流階級が、やがて一般市民が海のもつ素晴らしさに惹かれ、頻繁に訪れるようになりました。今日においても、海や海岸は英国の人々にとって生活に変化とゆとりを与える大きな存在であり続けています。

こうした**海を楽しむ英国の海岸において中心となるインフラが、沖に向かって伸びる桟橋「Pier」**です。英国の海岸は、この**桟橋を縦軸とし、エスプラナードを横軸として**、実に変化に富んだ広く豊かな空間を生み出しています。

海の上を歩き楽しむ不思議なインフラ『桟橋(Pier)』

多くの桟橋には係船機能がありますが、何よりも注目すべき特徴は**海の上を自由に歩き、大海原を感じ取ることができるプロムナード**としての役割です。英国の偉大な発明と云ってよいでしょう。非日常的な解放感に浸り、**海が少し荒れても気軽に海に出られ**ます。

木製のボードウォークが沖へと長く伸び、多くの桟橋には大規模な劇場、レストランや娯楽施設が設置されています。また**桟橋から街を振り返るとき、人々は見慣れた海岸や街の新しい景観**に驚き、胸を躍らせるのです。杭式構造の桟橋は見た目にも軽やかで、かつ海岸の連続性を損なうこともありません。

英国の海岸の顔－『エスプラナード（Esplanade）』

英国の沿岸各地の街づくりは、人と海が主役です。どの街にも**気持ちよく伸びる海の散策路『エスプラナード』**が海岸に整備されています。気がむけば海岸にどこからでも気軽に降りることができます。『エスプラナード』が海辺の都市やリゾートの顔となっているのです。

『エスプラナード』は、同時に**沿岸都市を暴風や高波から護る海岸防災の役割**も果たしています。幅広い防潮堤の上部を人々が海を楽しむ散策路として整備しているとも云えるでしょう。『エスプラナード』は、街に暮らす人々や滞在する人々が安全を確かにしつつ、海を楽しむための空間なのです。

活況を呈する英国の海岸リゾート

英国人の宿泊を伴う休暇旅行の実に 30% 以上が海岸リゾートを目指します。彼らは**海でただ泳ぎ浜辺で日光浴するためだけに来るのではありません**。海岸や街中の散歩や食事、美術館や博物館巡り、サイクリングや丘陵でのトレッキングなどをマイペースで楽しんでいます。

しかも夏場だけに洪水のように押し寄せる訳ではありません。**文字通り通年性の滞在型リゾート**なのです。**英国の沿岸都市は概ね小規模ですが驚くほどに元気**です。観光客で賑わう表通りだけでなく、地元の人たちが集まる裏通りの商店街や飲食街にも活気があります。

成熟社会の新しい海岸 づくり － 4つの視点

1　暮らしの舞台となる海岸を目指す

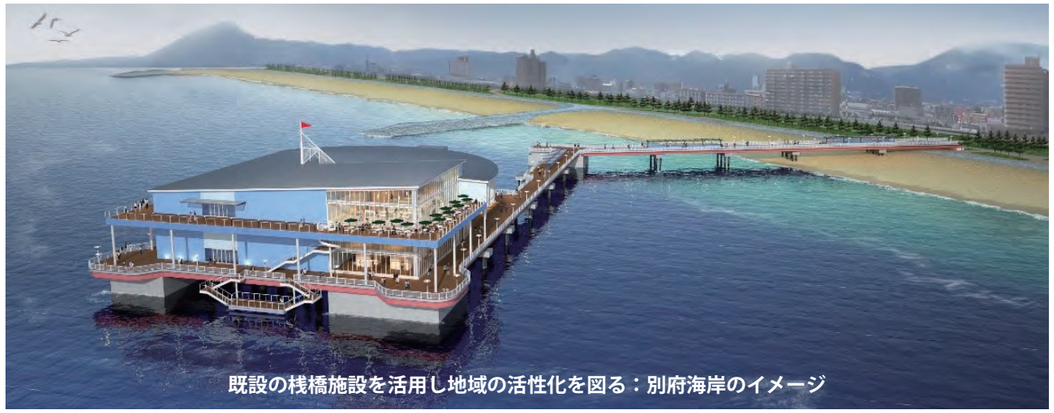
新しい海岸づくり

台風や高波さらに津波など、わが国の海岸は確かに厳しい条件に晒されています。しかし沿岸地域を活性化するためには、**海の脅威に備える防護一辺倒の発想から、海や海岸の魅力を満喫できるよう、海岸の防護と利用を両立させた新しい海岸づくり**を目指すべきです。

このような想いから PIERS 研究会に設けた「沿岸域における地方創生研究会（沿創研）」は、英国の『桟橋』と『エスプラナード』に多くの示唆を得て、全国 9 か所の海岸でケーススタディを行いました。ここに**成熟社会の新しい海岸づくりが目指すべき方向と具体的なイメージを提案**します。

沿岸地域に暮らす豊かさを実感できる海岸づくり

日本の海岸に**『桟橋』を導入すると、日本人の海との付き合い方は大きく変わる**でしょう。海の上を歩き、潮風を浴び、慣れ親しんだ自分の街を海から眺め驚くでしょう。海上で食事を楽しみ夕日に見とれるでしょう。海と云う大自然の空間が一挙に身近な存在となるに違いありません。



既設の桟橋施設を活用し地域の活性化を図る：別府海岸のイメージ

大都市圏で鉄道駅から渚、海に直結する桟橋を導入する：神戸須磨海岸のイメージ　©Google

2　四季を通して海を楽しむリゾートへ

また**『エスプラナード』は、海からの脅威を防ぎつつ、人々が海を楽しむ海岸の散策路**です。海に沿ってジョギングし、犬を連れて歩き、そして気軽に浜辺に降りたつでしょう。沿岸地域の暮らしを豊かにし、人を主役とする海岸づくりの象徴的な取り組みとなります。

暮らしと海との繋がりを取り戻し、**沿岸都市に暮らす喜びや豊かさが実感**できる状況をつくりましょう。成熟社会のインフラとして、生活の質を高める場としての海岸づくりが強く求められます。

通年型、滞在型の海岸リゾートへの展開

沿岸地域の人々にとって楽しい海岸づくりは、近隣の内陸地域や大都市圏からも人々が訪れる海岸リゾートへの発展の可能性を高めます。それも夏場だけの海岸の利用ではなく、**年間を通して落ち着いた休暇を楽しむ滞在型の海岸リゾート**を目指すべきです。

日本の半分の人口しかない英国で、多くの海岸リゾートが全国各地に発展していることに学びたいものです。少ない人口でも、四季を通じて長期の休暇を楽しむことにより、地方の沿岸都市の経済を潤しているのです。成熟社会を迎えた今、**質の高いライフスタイルの実現に取り組むことこそ、少子高齢化の日本が縮こまることなく輝いて発展していく途**ではないでしょうか。

沖の離岸堤まで桟橋で繋げ斬新な海の魅力を創出する：熱海海岸のイメージ

大規模公園の前に海岸の新たなシンボルとして桟橋を導入する：湘南辻堂海岸のイメージ

成熟社会の新しい海岸 づくり － 4つの視点

3　海岸マスタープランで街づくりを

日本列島の美しさ良さを心から噛みしめる滞在型の落ち着いた休暇を、日本社会も志向する時です。**地方創成にはこうしたライフスタイルの変革を通して活性化を図る戦略**が重要となっています。また滞在型の休暇を定着させるためには、高級ホテルだけでなく安価に宿泊できる施設の提供が重要です。空き家などの活用も含め、市民や民間の協力を得て取り組むべきです。

地域の人々が作る海岸マスタープラン

このような新しい海岸づくりを進めるためには、何よりも沿岸地域に暮らす人々が**自分達の海岸を見つめ直し、将来のあるべき海岸の姿を構想する**ことが重要となります。

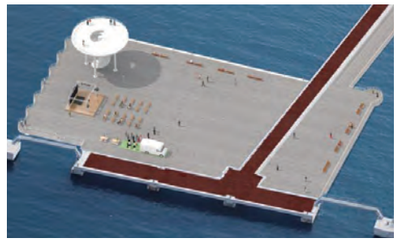
海岸マスタープランの策定においては、海岸の陸域・水域にわたる利用と保全のゾーニング、空間的な骨組みと拠点のあり方、保全すべき大切な資源や景観、多様な開発の進め方など、多くの課題を検討する必要があります。

また**海岸の防護と多様な利用の両立**については、地域の個性を活かした独創的なアプローチがより大切です。とくに**『桟橋』や『エスプラナード』が大きな役割を発揮する**でしょう。また現在ある海岸施設や港湾施設を改良し有効に活用することも重要です。沿岸地域の暮らしやすい街づくりは、**地元の海岸のもつ魅力や個性を最大限に発揮**させることから始まります。

海の上を歩き回遊性を楽しめるように桟橋を導入する：那覇波の上海岸のイメージ

©Google

既設の旅客船桟橋を拡幅し海岸のイベント拠点とする：館山湾海岸のイメージ



4　市民や民間の創意と参画で

また海岸保全施設の老朽化が全国的に進んでいますが、その更新や再整備を検討する今こそ、新たな海岸づくりの好機と位置づけるべきです。

市民や民間の自由な発想こそが鍵

この新しい海岸づくりの主役は市民や民間です。市民や民間の創意と工夫、行動、協力なくして海岸づくりは実現しません。『桟橋』や『エスプラナード』の基本部分は公的な整備で行うとしても、**海を楽しむための多様な施設の整備や運営は、市民や民間に委ねることが基本**となるべきでしょう。また海岸を良好に維持していくためにも、市民や民間の知恵と参画が欠かせません。

このため現行の**海岸の利用、活用に関するさまざまな規制を見直し、緩和**していく必要があります。一方で**環境や景観など海岸の広範な保全に関しては、新たな規制**も必要となるでしょう。また海や海岸を多面的に楽しむためには、**幅広い分野の市民グループや NPO などの協力**が不可欠です。休暇で滞在する人々にとっても、地元を知り尽くした市民や民間の積極的な協力が必要となるでしょう。

砂浜に四季を通して気軽にアクセスできる桟橋を導入する：新潟西海岸イメージ　©Google

海沿いの観光地の新たな魅力づくりとして桟橋を導入する：別府海岸イメージ

PIERS

水際線までが遠い海岸に桟橋を導入し楽しさを取り戻す：大洗海岸イメージ

このリーフレットに掲載した国内の海岸イメージ図は、沿創研のケーススタディによる成果であり、関係する行政機関や地域の了承を得たものではありません。

PIERS 研究会

目的・設立：広く『桟橋 (PIERS)』の研究を通して、わが国のウォーターフロント利用の発展に寄与することを目的に平成 25 年設立。港湾や海岸に関する幅広い分野の専門家が集結し活動。

沿岸域における地方創生研究会 (沿創研)： 『桟橋』や『エスプラナード』の導入を軸として、わが国の新しい海岸づくりを推進するため PIERS 研究会内に設置した活動グループ。

連絡先：〒 101-0041 東京都千代田区須田町 1-12-8　神田館 702

FAX：03-5297-2152 E-mail: piers.jp@gmail.com